

瀬戸内町の取り組み

瀬戸内町では、世界遺産に登録された奄美の自然と町民の日々の暮らしを守るため、「特定外来生物ゼロの町」を目指し、特定外来生物に指定された植物の駆除活動を行っています。

令和2年度に開始した駆除作業は今年度で5年目を迎えます。町のガイド事業者を中心に、計画的な作業を続けており、古仁屋市街地に生育していたオオフサモの地点根絶の達成をしたほか、他の種類も目に見えて減少しています。

駆除の効果が出ている一方で、町の事業だけでは、この広い瀬戸内町の全てを見ることは出来ません。皆さんの庭や畑、ご近所に特定外来生物はありませんか？皆さんの情報が奄美の自然や産業を守ることに繋がります。ご協力をお願いします。



生きものを飼うときは

ホームセンターや園芸店で販売される植物も奄美には元々いない外来種です。特定外来生物でなくとも、ひとたび外に出してしまうと、奄美の動植物に思わぬ影響を与えてしまうかもしれません。動物・植物問わず生きものを飼うときは、家の中や敷地内で最後まで責任を持って接しましょう。

より詳しく知りたい方へ

外来生物法について
<https://www.env.go.jp/nature/intro/1law/index.html>



特定外来生物一覧
<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list.html>



奄美の外来種について
<https://kyushu.env.go.jp/okinawa/awcc/alien-species-amami.html>



お問い合わせ

「特定外来生物を見つけた！」「これ特定外来生物かも？」という方は下記までご連絡をお願いします。



0997-55-8620

環境省
奄美野生生物保護センター



0997-72-1115

瀬戸内町水産観光課
世界自然遺産せとうち町対策室

発行年：2025年11月

発行：瀬戸内町水産観光課

写真・イラスト：環境省奄美野生生物保護センター、池上温人



NO! 特定外来生物

家や畑にありませんか？

「特定外来生物」とは自然や人の生活に大きな影響を与えることから、
法律で規制された外来種のこと。

家で育てたり、人に譲ったり、外に捨てることは**違法**です！

世界遺産に登録された島の自然を守るため、
瀬戸内町は「特定外来生物ゼロの町」を目指し、
駆除活動や情報収集を進めています。

皆様のご協力をお願いします！

最近、奄美大島から根絶されたマングースや、
テレビでよく見るヒアリ、アライグマなども
特定外来生物！！

特定外来生物ってなに？

人間によって本来の生息地を離れて持ち込まれた生きもののことを外来種といいます。この外来種の中で、特に自然や人の安全・農林水産業に被害を及ぼすものを、法律で「特定外来生物」に指定しています。

これらの生きものが入ってきてしまうと、世界で奄美にしかない自然が失われてしまうかもしれません。また、農業や観光など我々の生活への悪影響も報告されています。

奄美の自然や我々の生活を守るため、特定外来生物の駆除活動や新たな侵入を予防することが求められています。

禁止事項

特定外来生物は、飼育や栽培、保管、売買などが禁止されており、違反すると厳しい罰則が科せられます。



飼育・栽培



譲渡



売買



保管・運搬



野外への放出

罰則

個人の場合

300万円
以下の罰金

もしくは

3年
以下の懲役

法人の場合

1億円
以下の罰金

オオキンケイギク（キク科）

華やかな見た目が好まれ、かつては種子や苗が普通に販売されていた。路傍や河川敷など日当たりの良い場所を好む。定着すれば在来植物のすみかを奪い、景色を一変させてしまう。5～6月に黄色の花を咲かせる。

花びらの先はギザギザしている▶

葉は矛型に分岐する▼



ボタンウキクサ（サトイモ科）

観賞目的で日本各地に広まった水草。「ウォーターレタス」の名でも知られ、成長した株はレタスのような見た目をしている。水面を覆いつくすほどに増え、他の水草と競合するほか、水中の酸素・光不足を招く。

◀葉には細かい毛がびっしり生えている



オオフサモ（アリノトウグサ科）

観賞用に持ち込まれた水草。河川湖沼、水田、水路などに繁茂する。日本では雌株しか確認されていないため種子繁殖をせず、クローンで増える。在来水草と競合するほか、水流阻害や水田の作物が育たなくなるなどの被害が出ている。

◀鳥の羽根のような葉

▼自身の根を絡ませながら、マット状に広がる



奄美大島で6種も確認されている！！

奄美大島では、特定外来生物に指定された植物が6種も確認されています。

ときには民家の花壇や水槽で見つかることも！
特徴や見分け方を覚えて、ご自身のお庭や畑、ご近所を確認してみましょう。

ツルヒヨドリ（キク科）

中南米原産のつる植物で、他の植物に絡みつきながら成長する。周りの植物を覆い、日光を遮ってしまうため、覆いつくした植物を枯らしてしまう。在来植物のすみかを奪うほか、沖縄島ではシークワサー畑での農業被害が報告されている。

◀同じところから2枚の葉が出る。

◀葉はハート型で
縁がギザギザしている。



ナガエツルノゲイトウ（ヒユ科）

南アメリカ原産の多年草。水草として知られるが乾燥にも強く、河川、水田、畑など幅広い場所に繁茂する。再生力が強く、折れた茎の断片からも再生する。在来植物との競合のほか、農作物の収量低下、機械の効率低下などが懸念される。

◀長い柄の先に花が咲く

◀茎はストローのように中空



ミズヒマワリ（キク科）

流れの緩やかな水路や河川などに繁茂する多年草。成長が早く、密な群落を形成する。他の植物の生育阻害、魚類の生育環境悪化、水流阻害などの被害が知られている。

春～秋にかけて
白い花を咲かせる▶

ヒマワリの葉に似ている▶

